

第2部 グループセッション

<産官学における観測データ利活用の最前線>

(司会：下村) 第2部のグループセッションに入りたいと思います。第1部の基調報告を受けて、今度は実際に観測データ利活用の最前線がどうなっているかということについて、産官学のお三方から報告を頂きます。

一人目は、「地震に関するインデックス保険について」、東京海上日動火災保険株式会社の浜田個人商品業務部長にご報告いただきます。二人目は、「建築研究所における構造ヘルスマニタリングシステムに関する近年の取組」について、国立研究開発法人建築研究所の向井主任研究員からご報告いただきます。三人目は、「災害発生後の建物に行われる三つの調査・認定」について、新潟大学の田村先生からご報告いただきます。


「地震に関するインデックス保険について」

浜田 大介 (東京海上日動火災保険株式会社 個人商品業務部 部長
兼 火災グループリーダー)

1.お客さまのニーズに応えた新しい保険

私からは「地震に関するインデックス保険について」ご説明したいと思います。

まず、商品開発の経緯についてご説明します。熊本地震等、幾つかの地震を経て、弊社で実施した被災者へのアンケートや地震保険の損害サービス対応を通じて、図表1に挙げているようなニーズをお客さまから確認しました。具体的には、「被災後1~2週間が経済的に一番苦しかった」「車中泊のためにガソリン代が必

商品開発のコンセプト	
被災者へのアンケート調査や地震保険の損害サービス対応を通じて、高額ではないものの、「被災直後の当座の生活資金」ニーズを確認しました。	
<ul style="list-style-type: none"> > 被災後1~2週間が経済的に一番苦しかった。 > 車中泊のためにガソリン代が必要になった。 > 物資の不足により、物価が高騰して、想定外のお金がかかった。 > 幼児がいたため、避難所ではなくホテルに泊まる必要があり、宿泊費がかかった。 > 余震が続く不安から、遠方の実家に避難し、交通費がかかった。 	
1	

要になった」「避難所ではなくホテルに泊まる必要があり、宿泊費がかかった」といった、まさに被災直後の当座の生活資金に関わる困り事が聞かれました。

こうした声を踏まえて課題解決を考える上で、弊社としては、被災直後の当座の生活資金ニーズにお応えするというコンセプトで、地震に関するインデックス保険を開発するに至りました（図表 2）。商品名は「地震に備える EQuick（イーquick）保険」で、2021 年 3 月から発売予定です。補償内容としては、お客さまがお住まいの建物が所在する市区町村において、一定規模の地震が観測された場合に、お客さまが損害を被ったものと見なし、その損害に対して保険金をお支払いするものです。ここでポイントとなるのが「損害を被ったものと見なし」という部分です。通常の保険であれば、保険会社が損害査定を行い、お客さまがどの程度の損害を被っているかを確認しますが、迅速に保険金をお支払いするというコンセプトの下、その損害査定を不要とするのがこの商品の特徴です。

使用するインデックスは、気象庁が地震発生時に公表する市区町村単位の震度です。プレミアム、スタンダード、エコノミーという三つのプランを用意しており、プレミアムプランは保険料が 9600 円で、震度 7 の地震が観測された場合は 50 万円、震度 6 強であれば 20 万円、震度 6 弱であれば 10 万円の現金をお支払いします。そこから補償を少しずつ削っていく形で、最も廉価なエコノミープランでは、保険料 2400 円で、震度 7 であれば 20 万円、震度 6 強であれば 5 万円の現金をお支払いする商品となっています。

2

商品内容				
「被災直後の当座の生活資金」ニーズにお応えするために、「 損害査定を必要とせず、一定の支払条件に合致する場合に、定額の保険金を迅速にお支払いする 」、地震リスクに関するインデックス保険を開発しました。				
項目	内容			
商品名 (パットネーム)	震度運動型地震諸費用保険 (地震に備えるEQuick (イーquick) 保険)			2021年3月発売予定
補償内容	被保険者の常時居住の用に供する震度観測建物が所在する市区町村において、対象震度の地震が観測された場合に、被保険者が損害を被ったものとみなし、その損害に対して地震諸費用保険金をお支払いします。			
インデックス	気象庁が地震発生時に公表する市区町村単位の震度（震源・震度に関する情報）			
保険金額・ 保険料		プレミアム	スタンダード	エコノミー
	保険金額	震度7 50万	25万	20万
		震度6強 20万	10万	5万
		震度6弱 10万	5万	—
	保険料	9,600円	4,800円	2,400円

TOKYO MARINE
NICHIEDO

2. 「地震に備える EQuick 保険」の特徴

この保険の特徴の一つは、最短3日で保険金の受け取りが可能なことです（図表3）。地震発生後、当社は、気象庁が公表する震度データに基づき、支払い対象となる契約を特定し、保険金の支払い手続きを開始します。地震発生後、速やかに当社からメールを発信し、それを受信したお客さまに、お住まいの住所や保険金の受け取り口座が正しいか確認していただいた上で、弊社から保険金をお支払いします。実際に家屋等の損害状況の確認を行わずに、観測された震度に応じて保険金をお支払いするため、必要となる期間は地震発生から最短3日を想定しています。

特徴の二つ目は、この商品の存在意義とも言える保険金の迅速な支払いを実現するために、各種契約手続きや保険金の支払い手続きをスマホで完結させていることです（図表4）。お客さまに行っていただく契約の申込み手続きや契約内容の変更手続き、保険金の受取り手続きが全てスマホで完結します。このように人手を介さないことで、迅速な保険金のお支払いを可能にしています。

3

地震に備えるEQuick保険の特徴①

■最短3日で保険金のお受け取りが可能

- ✓地震発生後、当社は、気象庁が公表する震度データに基づいてお支払対象となるご契約を特定し、保険金のお支払い手続きを開始します。
- ✓家屋等の損害状況の確認が不要であり、観測された震度に応じて保険金をお支払いするため、地震発生から最短3日で保険金を受け取ることができます。

■イメージ図（保険金お受け取り時の流れ）

地震発生後、速やかに当社からメールが届きます。

お住まいの住所や保険金お受け取り口座が正しいかご確認いただきます(*1)。

最短3日でお客様指定の口座に保険金をお振込みします。

(*1) 地震発生後、72時間以内に確認ができない場合は、契約時の内容に基づいてお支払いします。

TOKYO MARINE NICHIGO

4

地震に備えるEQuick保険の特徴②

■スマホのみで各種手続きが完結

- ✓デジタル技術を活用し、お申込みや保険金お受け取り手続きが、スマホで簡単に完結します。

お客様

お申込み手続き

契約内容変更手続き

保険金受取り手続き

銀行口座等

弊社

引受

契約管理(各種通知等)

保険金支払(支払通知等)

TOKYO MARINE NICHIGO

3. 「地震に備える EQuick 保険」の位置付け

地震保険と、今回開発した「地震に備える EQuick 保険」の位置付けについて説明したいと思います（図表 5）。

地震保険の目的は生活再建で、建物や建物に収容される家財が保険の対象です。火災保険とセットで加入していただき、保険金額は建物や家財の火災保険の保険金額の 30～50%の範囲内で設定します。建物で最大 5000 万円、家財で最大 1000 万円を契約することが可能です。保険金の支払いには実際の損害の程度を確認する必要があります。

一方、「地震に備える EQuick 保険」は、目的が被災直後の生活資金の確保ということで、保険金額も 5 万～50 万円と少額ですが、先ほどからご説明しており、震度に応じて保険金をお支払いすることと、弊社による損害査定を行わないことで、迅速に保険金をお届けすることができます。このような観点から、「地震に備える EQuick 保険」は、地震保険の機能を補完する位置付けとなっています。従って弊社としては、既に地震保険に加入しているお客さまに対してもこの保険をお勧めしたいと考えており、また、この保険に興味を持っていただいたお客さまに十分な補償を提供する観点から、地震保険への加入も勧めてまいりたいと考えています。

（司会：下村） これはかなり画期的なシステムのような気がします。来年 3 月に発売ということですが、このようなシステムは業界初ですか。それとも結構あるのですか。

（浜田） 本邦初です。現時点で日本国内にこのような商品は存在していませんが、海外には幾つかあります。

地震に備えるEQuick保険の位置づけ							
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本商品は、「被災直後の当座の生活資金」の確保を目的としており、被災者の生活再建を目的とした、地震保険の機能を補完する位置づけの商品です。 ▶ 本商品の保険金額は地震保険と比べて少額（最大50万円）であり、より補償の充実した地震保険も合わせてお客様にお勧めしてまいります。 							
■地震保険と地震に備えるEQuick保険の主な違い							
保険種類	目的	加入方法	保険金額	保険金のお受取り手続き			
地震保険	・生活再建 ・建物・家財 の復旧	火災保険と セットで加入	・火災保険の保険金額の30%～50% の範囲内で設定。 ・但し、下表の金額が限度	・損害の程度に応じた保険金をお支払 ・保険会社による損害確認が必要			
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>保険の対象</th> <th>保険金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物</td> <td>5,000万円</td> </tr> <tr> <td>家財</td> <td>1,000万円</td> </tr> </tbody> </table>	保険の対象	保険金額
保険の対象	保険金額						
建物	5,000万円						
家財	1,000万円						
地震に備えるEQuick保険	被災直後の 生活資金確保	本商品単独で 加入可能	プラン・震度に応じて5万円～50万円	・震度に応じてお支払い ・弊社による損害確認は不要 (ネットで保険金の受取り手続き)			

5

（司会：下村） 地震保険の補完であるという表現がありましたが、ということは、応急的に3日後に50万円を支給した後、実際に査定を行って、その50万円が不十分あるいは払い過ぎだった場合、足したり戻したりという補正があるのですか。

（浜田） この商品と地震保険は全く別物なので、後で足したり差し引いたりという調整は行いません。あくまで当座の生活資金確保を目的としてお支払いするもので、位置付けが少し異なるので、重複もないと考えています。